

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800044		
法人名	特定非営利活動法人 水度坂友愛ホーム		
事業所名	グループホームゆうあい寺田		
所在地	京都府城陽市寺田乾出北45番地		
自己評価作成日	2015/11/27	評価結果市町村受理日	平成28年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2692800044-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成28年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との絆を大切に、家族の役割、職員の役割を理解した上で、入居者に合ったサービスを提供している。 本年度は、家族との絆をより一層深めていただくよう、家族と一緒に一泊の温泉旅行を実施し、スタッフの支援によって皆さんの素晴らしい笑顔をいただいた。最後の看取りまで支援する事を目指し、家族、医師、ナース、ケアマンが連携を密にしたサービスに力を入れている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は独自の理念をフロアに掲げ、それを基に月間目標を立て毎月のカンファレンスで話し合いを行っています。「家族と共に」「地域と共に」という思いを大切に、家族や地域の協力を得ながら、入居者が変化のある暮らしを楽しめるよう様々なことに取り組み理念の実践に繋がっています。散歩時の近隣の方との挨拶に始まり、地域の小学校の運動会や音楽会等に参加したり、中学生の職場体験の受入れの他、コーラスや傾聴のボランティアの来訪がある等地域との交流が活発に成されています。事業所内での行事や外出の機会を多く持ち、家族の協力を得て一泊旅行も実施しています。入居者の状態が重度化した際には家族や協力医、看護師と相談し方針を共有しながら看取りの体制を整え支援しています。また、やりたいと思うことが出来るように入居者の残存能力を活かせるよう取り組んでいます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼にて、理念を唱和し実践につなげている。(月間目標も唱和している)	法人の理念をリビングに掲示し、日々番号毎に唱和を行い全職員に意識づけを行っています。理念を基に月間目標を立て理念の実践に努めています。センター会議やミーティング、日々の支援の中で目標に対する達成度や反省点等話し合い理念を振り返る機会としています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や音楽会に参加したり、花植事業にも参加して地域とのつながりを大切にしている。	町内会に加入しチラシや運営推進会議等で地域の情報を得ています。散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり地域の商店での買い物や地域の音楽祭等にも入居者と一緒に出かけています。同法人の他事業所と合同で開催される運動会では幼稚園児や地域の方にも参加してもらい交流する機会を作っています。また、コーラスや傾聴ボランティアの来訪もある等、地域との関わりが広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症予防教室や認知症カフェ、花植え事業を通して地域に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、その場で利用状況等を報告している。	会議は家族代表や民生委員、地域包括支援センター職員、市職員等の参加の下2か月に1回開催し、入居者の現状や活動報告、意見交換を行っています。民生委員から地域の行事の情報をもらい入居者と参加する等、意見を反映させています。意見を受けて取り組んだことや対応策については次の会議で報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	城陽市地域密着連絡協議会で協力関係を築くよう取り組んでいる。	2か月に1度開催される地域密着連絡協議会(事業者と市の共催)に出席し、市職員に運営上の不明点等について確認したり意見交換を行う等、行政と協力関係が築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を年1回実施し、身体拘束のないケアに努めている。	研修計画に基づき年1回事業所で行う身体拘束の研修に参加し言葉による抑制や高齢者虐待の定義等について学び、不参加の職員には内容を伝達しています。問題のある言葉掛けが見られた場合は職員間で注意しあえるようにしています。外出の希望がある入居者には職員が付き添って出かけ気分転換を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を年1回実施し、出席できない職員には伝達するよう努めている。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修は行っていないが、職員同士で疑問がある場合話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかり説明し、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や要望は、その都度ミーティングで話し合うとともに、月1回のGH会議やセンター会議で話し合い、運営に反映させている。	年1回アンケートによる満足度調査を行い結果を家族に報告しています。面会時に家族から意見や要望を聞くように努め、家族からの要望を受け暑さ対策のため、全居室にエアコンを設置するなど、出された意見は職員間で検討し改善に向けて取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター会議で意見を聞き、運営委員会やセンター長会議で検討後反映させている。	会議やミーティング、日々の支援の中で職員の意見や要望を聞いたり、各職員は担当業務があり、担当者からの意見も挙がっています。自然に排便を促す方法がないかなどの意見を受けヨーグルトを取り入れ排泄状況の改善に繋げるなど日々の支援に活かしています。また、年2回定例で個人面談を実施し、職員から意見を聞く機会としています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回スタッフのヒアリングを行い、意見の反映を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任者、中堅者などの外部研修と施設内研修の実施により、スタッフの育成を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着会議を行っており、その中で事例検討会等を実施している。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人が困れていることや要望に耳を傾け、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族と連絡を取りあいながら信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議(年2回)を開いて話し合いを持ち、必要とするサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きやお茶の葉つめなど、スタッフと一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの理念に沿って、家族の役割を大切にしながら、本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人や知人が面会に来られても良いことを家族に伝え、なじみの関係が途切れないように努めている。	知人や親戚、ひ孫等の訪問時にリビングや居室へ案内しお茶を出すなどゆっくり過ごしてもらえるように配慮したり、入居者と来訪者の中を取り持つ等の支援を行っています。職員と一緒にドライブで自宅周辺や馴染みの商店へ買い物に出掛けることもあります。家族と墓参りや法事等で外出する際には身支度や薬等の準備を支援しています。職員は意識して入居者の希望を引出すことを心がけ、馴染みの人や場所との関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自室よりも入居者同士でテレビを見たり、リビングで会話する事を大切にしている。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当者が入居者の意向を把握しながらケアプランを作成している。家族にも協力を要請している。	入居前の面談で入居者や家族、以前に利用していた施設やケアマネージャから生活歴や身体状況、趣味、意向や希望等を聞きシートに記載し思いや意向の把握に繋げています。入居後に利用者との会話や様子から汲み取った思いや希望はその都度記載し、入居者本位に職員間で検討し共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス担当者会議、または面会時などにご家族からの情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「一般状態」記録、「個人記録」などに記入し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議での家族との話し合いと、月1回の(事業所)全体ミーティングで話し合い、計画に反映している。	入居者や家族の意向を基に作成した介護計画は3～4か月毎にモニタリングと再アセスメント、見直しを行っています。入居者の状態に変化があれば随時の見直しも行い、見直し前には家族や看護師にも参加してもらいサービス担当者会議を開催し、職員の意見や事前に聞いた医師の意見を反映させ現状に合わせた介護計画を作成しています。日々の個人記録は計画の実施状況が分かるように記載されています。	ミーティング以外などにもスタッフの意見やアイデアをいつでも出しやすいように、意見の貼り付けボードを置いてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「一般状態」「個人記録」に記入し、引継ぎやミーティングにより職員間で情報を共有し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能型居宅介護事業所等他部署と連携・交流し、個人のニーズに対応している。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区内の運動会に参加したり、城陽市地域密着会議に参加。今年は城陽市ふれあい祭りにも参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、かかりつけ医の訪問診療で入居者全員が受診。異変があるときは電話ですぐに連絡している。	入居時に今までのかかりつけ医か事業所の協力医かを選択することが可能で、殆どの入居者が協力医に変更し、月2回の往診を受けています。かかりつけ医や精神科などの専門医へは家族の対応で受診し、必要な情報は口頭で家族と連絡しています。協力医へは看護師を通じて24時間連絡可能で、緊急時には家族や看護師に連絡して緊急搬送することもあります。月2回歯科往診があり必要に応じて診察や治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の入居者の様子は、看護師と連携を取りながら対応している。状態によっては医師に連絡を入れ、適切な対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際は、介護職や看護師が病院に出向いて関係者と話をし状態を把握しながら、医師、家族との関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、同意を得ている。年2回のサービス担当者会議、または日常的に面会時に話し合い、方針を共有しチーム支援に取り組んでいる。	入居時に看取り指針を基に事業所の方針や対応可能なことを家族に説明し同意をもらっています。重度化した際に家族と医師、看護師、職員と話し合い看取りの体制を整え方針を共有しています。食事の支援を工夫したり、入居者の状態を把握しながら支援し家族からは頻繁な面会や宿泊等の協力を得ています。看取りを終えた後に振り返りを行いターミナルケアの向上に繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を定期的に行い、その中で事故発生時に備えての訓練等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の委員さんも参加して、年2回の防災訓練を行っている。そのうち1回は夜間想定避難訓練を行っている。	年2回の内1回は夜間想定でいずれも消防署立ち合いの下、入居者も参加し通報や初期消火、避難誘導等の訓練を実施しスモーク体験も行い、消防署から設備の確認や訓練の講評をもらっています。運営推進会議と合わせて実施した場合は会議の参加者も役割を持って訓練に参加してもらっています。近隣へは訓練実施の案内を行っています。	

グループホームゆうあい寺田

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内にて法令遵守の研修を行い、人格の尊厳とプライバシー保護に取り組んでいる。気づいた点はスタッフ同士で話し合っている。	年1回事業所で法令遵守やプライバシーに関する研修を実施し、不参加の職員へは伝達研修を行い周知しています。入居者は人生の先輩であり敬意を持ちながら接するよう心がけると共に全職員が入居者1人ひとりの関わり方について考え、その人に応じた関わりが持てるよう意識し日々の支援に当たっています。不適切な対応があれば職員間で話し合ったり管理者が注意をすることもあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人の思いや希望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを優先し、無理強いしないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれができるよう、見守りながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人一人のできる事を活かし、食器拭きやお茶の葉入れをしていただいている。	献立は朝は事業所職員が決めて作り、昼・夕は併設事業所も含めて施設の担当者が決めて作っています。月1回管理栄養士にカロリーや栄養バランスについて確認してもらったり、旬の食材や事業所で収穫した野菜等も取り入れています。入居者には野菜を切ったりお盆を拭く等出来ることに参加してもらい職員も一緒に食卓を囲んでいます。外食や季節の行事食を実施したり、手作りケーキ等、食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回カロリー計算をして栄養バランスにも気を配っている。また、入居者により水分量チェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、番茶による口腔ケアを促し、実践している。歯ブラシや歯間ブラシを使用している方もいる。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タイミングの良いトイレ誘導などに心掛け、できるだけパット使用を減らす努力をしている。	トイレでの排泄を基本とし排泄記録を基に入居者個々の排泄パターンを把握し、入居者それぞれに応じた声掛けやトイレへの案内をしています。個々に合わせた支援を継続することでおむつから布の下着に移行する等、排泄状況が改善した利用者もいます。排泄用品の種類や支援方法等については職員間で検討し、入居者の肌の状態の改善や表情が明るくなるなど等、自立に向けた取り組みを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖や牛乳を飲むなどで工夫している。また、便秘予防体操にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人が入りやすいタイミングに合わせ、日中だけでなく夜に入浴するなど、時間帯の工夫をしている。	入浴は週3回を目安に朝から夕方に入ってもらい、希望により夜間や毎日の入浴も可能です。入浴拒否が見られる場合は声掛けをする職員を代えたりタイミングを工夫することで無理なく入浴してもらっています。入居者の希望に沿い同性による入浴介助を行い、肌に合うシャンプーを持ち込んでもらったり、入浴剤の使用やどくだみやゆず湯を実施しゆっくり入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間帯に関係なく体調に応じて居室で過ごしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に、医師の指示を仰ぎながら服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品等については、個別に対応している。将棋やピアノ等を弾くなど、張り合いのある生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	サービス担当者会議では家族と話し合い、月1回のミーティングではスタッフ間で話し合い、計画に反映している。本人の希望に添えるような外出支援を家族の協力の下で実践している。	日常的に散歩や買い物に出掛けています。地域行事に参加したり、桜や紅葉、イルミネーション等の季節毎の外出も実施しています。家族の協力も得て滋賀県へ1泊旅行を実施する等、外出の機会を出来る限り多く持てるように努めています。外で流し素麺やバーベキュー、花火大会を実施する等、外気に触れる機会を作っています。	

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持ち、職員が同伴して買い物に出かけることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話で話をしたり、年賀状が届いたり、誕生日に花が届いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な共用空間、季節感のあるものを置くなど、居心地の良い空間づくりをしている。	生花を飾ったり、行事の写真や風の飾り、季節の歌の歌詞を掲示してみんなで歌う等、温かい雰囲気を作っています。廊下に椅子を置き一人になれる空間を作り、寛いで過ごせるよう配慮しています。毎日清掃を行い清潔保持に努め、入居者同士の相性を考慮して机や椅子の配置を変える等、過ごしやすい共有空間作りに配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室で自由に過ごしたり、リビングでは自分の居場所がある方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた調度品を置いたり、思い出の品や写真を置くよう心掛けている。	入居時に家族に使い慣れた物を持ち込んでもらうように伝えテーブルや椅子、ぬいぐるみ、棚、家族の写真等を持ち込み、家族と職員が相談して配置しています。こまめに清掃を行い清潔保持を心がけ、雑誌や本を持ち込み読書を楽しんだり、ボランティアの聖書の語りに耳を傾ける等、思い思いに快適に過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスやエレベーターはなるべく使用せず、残存機能を活かしてもらうよう、階段も使用している。		